

改善計画書

岩手沿岸南部広域環境組合
管理者 釜石市長 野田 武則

1 目的

本計画書は、沿岸南部地域循環型社会形成推進地域計画の4(2)に定める目標の達成状況を評価した結果、目標を達成できなかった項目について、その要因を分析するとともに、今後の目標の達成に向けた方策等にかかる計画を定めるものである。

2 目標の達成状況

(1) 排出量

- ① 事業系総排出量が目標値7,725tに対し8,136tとなり、5.3%増で目標を達成できなかった。
- ② 家庭系総排出量は、41,801tに対して27,499tとなり、34.2%減で目標を達成できた。
- ③ 家庭系1人当たりの排出量は目標値278kg/人に対して208kg/人となり、25.2%減で目標を達成できた。
- ④ 事業系家庭系総排出量合計については目標値49,526tに対し、35,635tとなり、28.0%減で目標を達成できた。

(2) 再生利用量

① 直接資源化量

目標値5,941t(総排出量比12.0%)に対し、3,647t(総排出量比10.2%)に留まり、目標を達成することができなかった。

② 総資源化量

目標値14,421t(総排出量比29.1%)に対し、11,688t(総排出量比32.8%)となり、数量は達成できなかったが総排出量の減少に伴うものである。割合は目標を達成した。

(3) 熱回収量

目標値14,940Mwhに対し、15,977Mwhとなり目標を達成した。

(4) 減量化量

目標値34,812t(総排出量比70.3%)に対し、22,420t(総排出量比62.9%)となり、目標を達成した。

(5) 最終処分量

目標値1,690t(総排出量比3.4%)に対し、2,353t(総排出量比6.6%)に留まり、目標を達成することができなかった。

3 目標が達成できなかった要因

(1) 排出量

① 事業系総排出量

震災に係る復旧復興事業や工事があり工事関係者等の流入があることから、これらに係る事業系一般廃棄物量が増加したものと推測される。

(2) 再生利用量

① 直接資源化量

震災の影響により構成市町においても住民生活に様々な影響が出ており、分別収集への協力体制等も震災前と比較して弱体化しており、目標が達成出来なかった。

(3) 最終処分量

災害廃棄物処理による飛灰量の増加によるものなどが考えられる。

4 目標の達成に向けた施策等

(1) 排出量

① 事業系総排出量

事業系総排出量の削減に向け、次の施策の強化・推進を行う。

- ・ごみ減量化・リサイクルの推進に関する説明会及び出前講座の開催
- ・広報やHPを活用した啓発活動の実施

(2) 再生利用量

① 直接資源化量

再生利用量の拡大に向け、次の施策の強化・推進を行う。

- ・広報やHPを活用した啓発活動の実施
- ・分別の徹底による減量化・資源化の促進
- ・集団回収事業の継続及び本事業を通じての地域団体及び資源回収業者の育成
- ・施設見学などを通じた環境教育・環境学習の推進
- ・分別収集品目の拡大についての検討。

(3) 最終処分量

災害廃棄物処理が完了したことにより飛灰量は抑制されると考えられるが、(1)(2)の施策の強化・推進に加え、今後、飛灰の山元還元等を検討していく。